

日本環境共生学会 地域シンポジウム
平成26年5月31日

滋賀の流域治水の 考え方

滋賀県 土木交通部 流域治水政策室
主幹 辻 光浩

本日の内容

1. **流域治水とは**
2. **地先の安全度マップ**
3. **なぜ流域治水政策が必要か**
(水害に対する地域防災力の低下)
4. **流域治水条例の主な施策**

滋賀県流域治水の推進に関する条例の概要

平成26年3月31日公布

3

◎前文 ・条例制定の背景 ・流域治水を推進する意義 ・条例を制定する目的

◎目的 ・流域治水を総合的に推進し、もって浸水被害から県民の生命、身体および財産を保護し、将来にわたって安心して暮らすことができる安全な地域の実現に資する

◎総則

- ・用語の定義
- ・基本理念
- ・県、県民、事業者の責務

基礎情報

◎想定浸水深の設定等(地先の安全度マップ)

- ・県:流域治水に関する施策の基礎資料として、想定浸水深(地先の安全度マップ)を設定
- おおむね5年ごとに設定・公表

実現

ながす

◎河川における氾濫防止対策

- ・知事:管理する河川の整備を行う。(浸水により生命・身体に著しい被害を生ずるおそれがある区域では特に配慮)
- 河道の拡幅等を計画的・効果的に実施し、
- 流下能力を維持するための河川内
- 当面河道拡幅等が困難な区間にお

◎氾濫原における建築物

- ・浸水警戒区域における建築規制
- ・区域(200年確率降雨で浸水深約3m)の指定
- 市町長・流域治水推進審議会(新設)
- ・指定区域においては、知事が想定浸水深を
- 保されているかを確認した上で許可
- ・10年確率降雨で浸水深50cm以上の区域は市街化区域へ新たに編入しない(対策が講じられる場合を除く)
- ・盛土構造物の設置等の際の配慮義務

ためる

◎集水地域における雨水貯留浸透対策

- ・森林および農地の所有者等:森林および農地の適正な保全に努め、雨水貯留浸透機能の発揮
- ・その他の所有者等:雨水貯留浸透機能の確保

「どのような洪水からも命を守る」

「多重防御」

ための対策

- ・伝達体制を整備・市町への支援
- ・とともに、非常時には的確に避難誘導
- ・地等の売買等に情報提供
- ・審議会を組織し、浸水警戒区域の指定に関する事項や浸水被害の回避・軽減に必要な取組を検討

そなえる

とどめる

◎雑則

- ・財政上の措置
- ・施策実施状況の議会への報告
- ・市町条例との関係

◎罰則(当分の間適用しない)

- ・建築規制に関する規定に違反した者への罰則および過料

※下線部は当初案からの主な追加・変更箇所

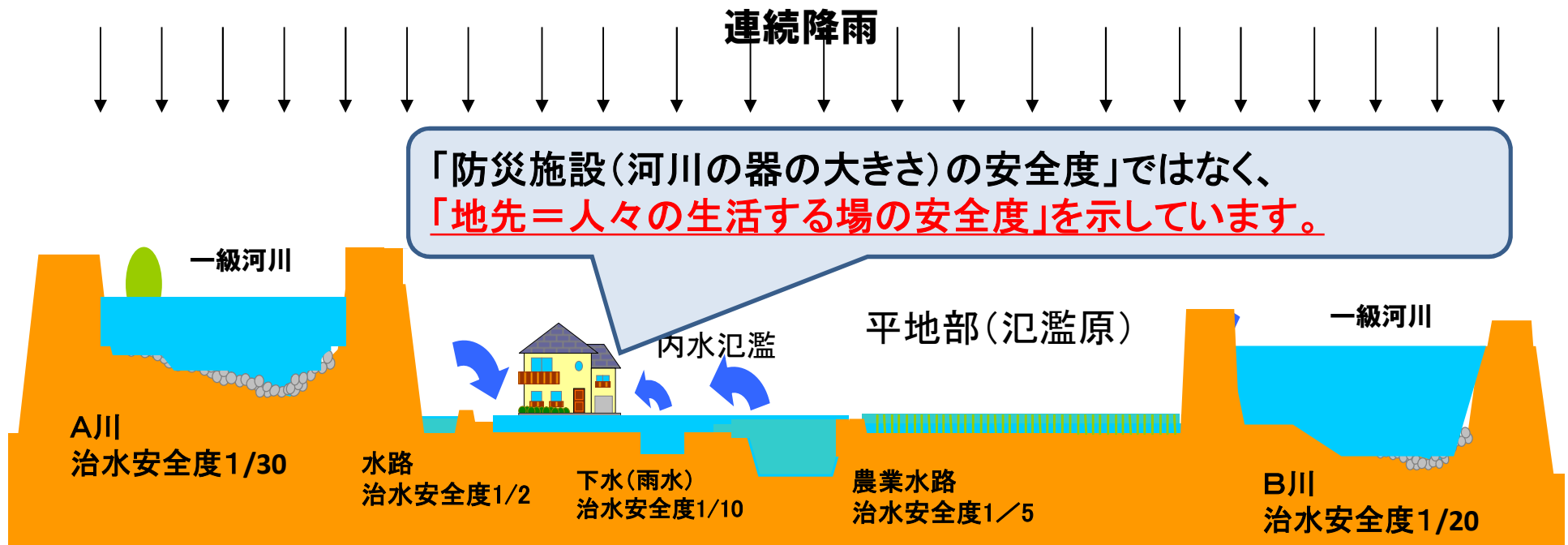
流域治水条例と法律の関係 (治水の円卓)



それぞれの法令で定められている施策を、「地先の安全度」(住民が住んでおられる場所の浸水深など水害リスク)に対応するため、総合政策の仕組みとして一つの条例の中で関連づけ、住民目線でわかりやすく、運用しやすいようにまとめたもの。

流域治水の基礎情報 「地先の安全度マップ」⁵ (全国初。平成24年9月公表)

大河川だけではなく、身近な水路のはん濫なども考慮した浸水想定マップ(10年、100年、200年に一度の雨)



- 浸水想定区域図: 大きな川からのみ氾濫。他は晴天
- 地先の安全度マップ: 大きな川だけではなく、身近な水路も氾濫
→ 実現象に近い予測が可能となった

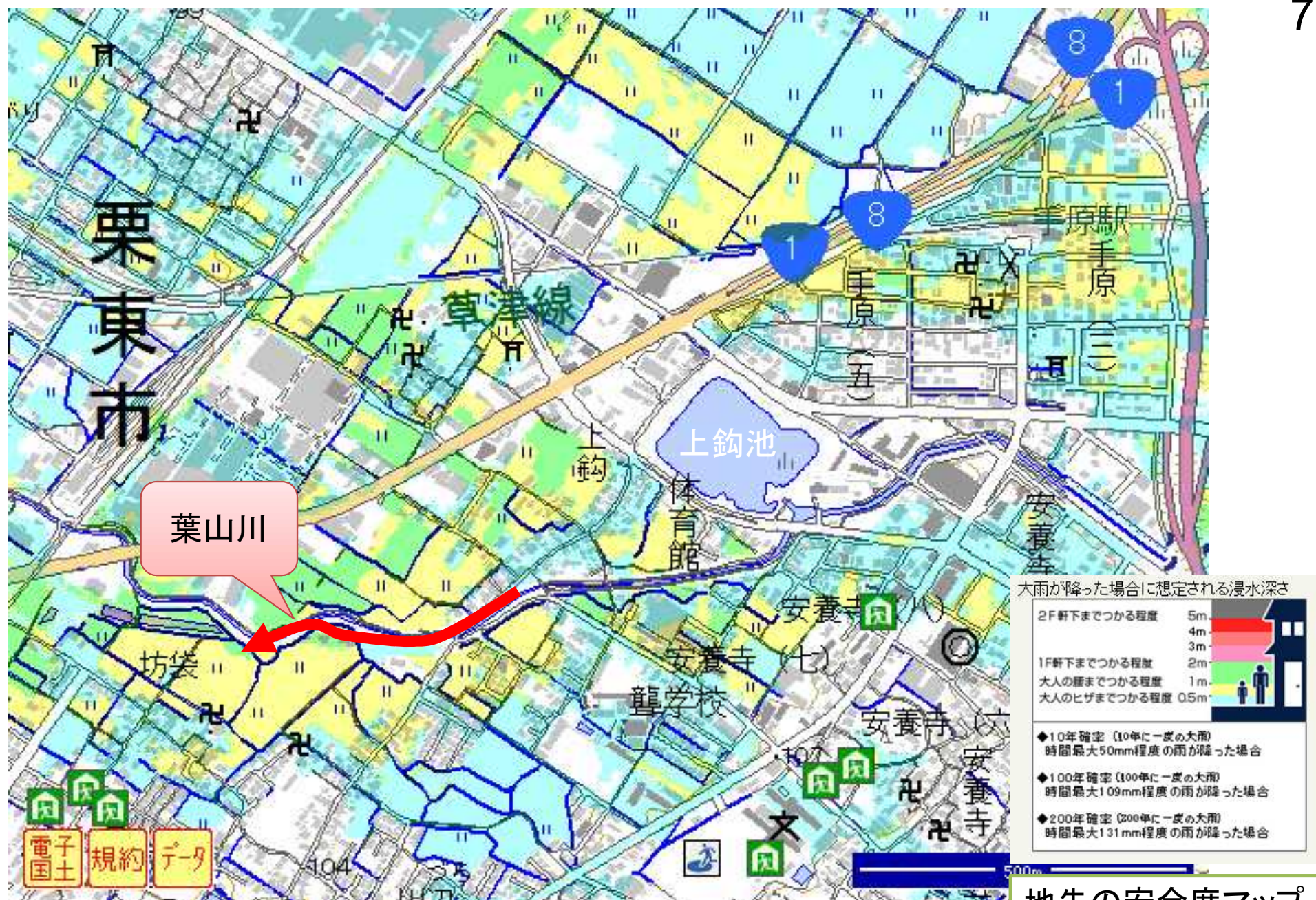
野洲川からの氾濫

葉山川



草津川・金勝川からの氾濫

浸水想定区域図に基づく 栗東市ハザードマップ



地先の安全度マップ
1/100最大浸水深図

災害リスクの「見える化」 自宅は？職場は？

<http://shiga-bousai.jp/internet/map/index.html>

shiga prefecture
滋賀県 防災情報マップ

2013年8月13日 更新

の防災情報マップは、予想される様々な危険性を事前にお知らせすることにより、市民の皆さんに防災への感心を持っていただき、被害の軽減の行動に役立つよう作成したものです。

滋賀県防災マップ | 防災ポータルマップ | 使用上の注意 | 使い方 | 用語の説明 | リンク集 | お問い合わせ

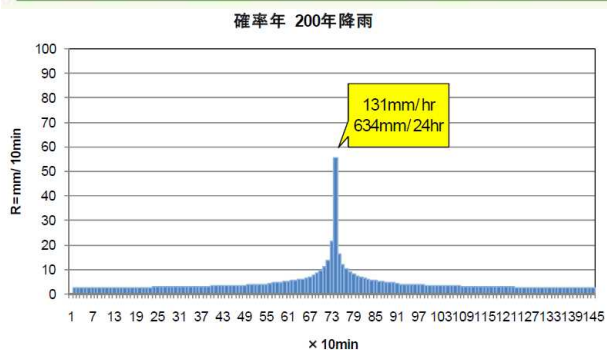
「浸水」「土砂災害」「地震」のリスクを見ることができます。

昭和34年(1959)伊勢湾台風 近江八幡市水茎町

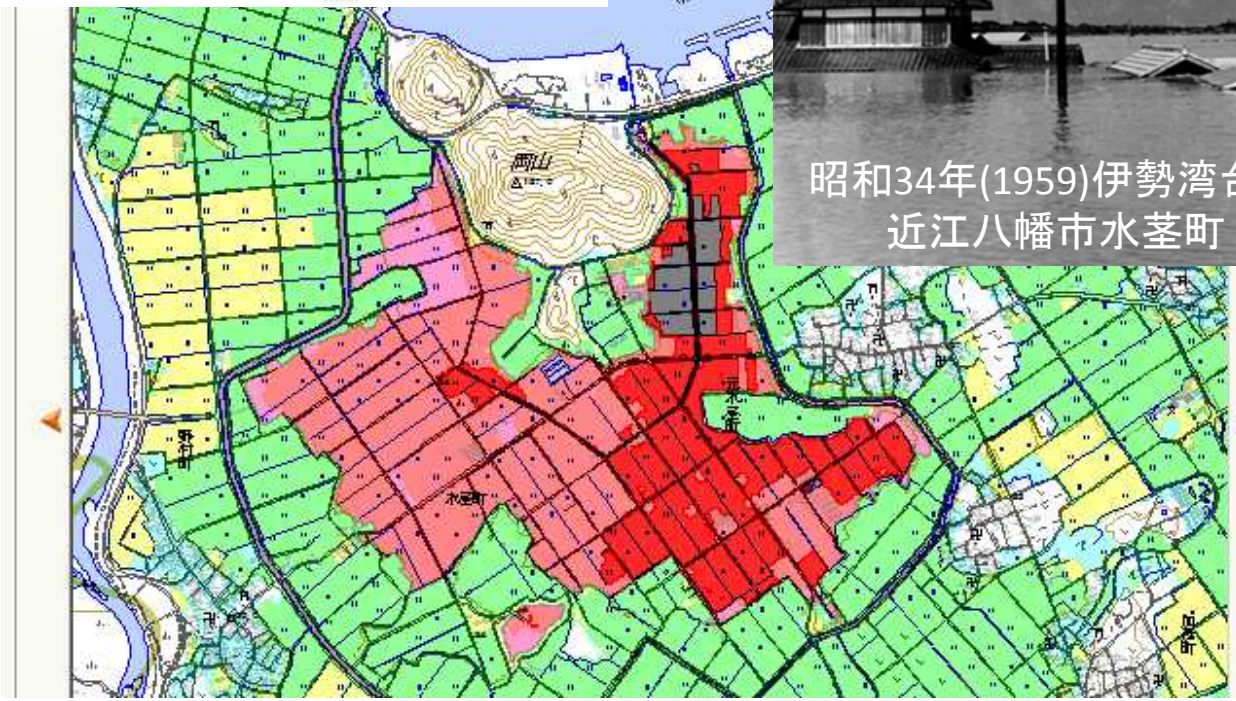
大雨が降った場合に想定される浸水深さ

2F軒下までつかる程度	5m
	4m
	3m
1F軒下までつかる程度	2m
大人の腰までつかる程度	1m
大人のヒザまでつかる程度	0.5m

- ◆10年確率 (10年に一度の大雨)
時間最大50mm程度の雨が降った場合
- ◆100年確率 (100年に一度の大雨)
時間最大109mm程度の雨が降った場合
- ◆200年確率 (200年に一度の大雨)
時間最大131mm程度の雨が降った場合



「浸水」「土砂災害」「地震」のリスクを見ることができます。



- 浸水
 - 土砂災害
 - 地震
- 彦根市_100年確率
 - 彦根市_200年確率
 - 長浜市_10年確率
 - 長浜市_100年確率
 - 長浜市_200年確率
 - 近江八幡市_10年確率
 - 近江八幡市_100年確率**
 - 近江八幡市_200年確率
 - 草津市_10年確率
 - 草津市_100年確率
 - 草津市_200年確率
- 選択解除

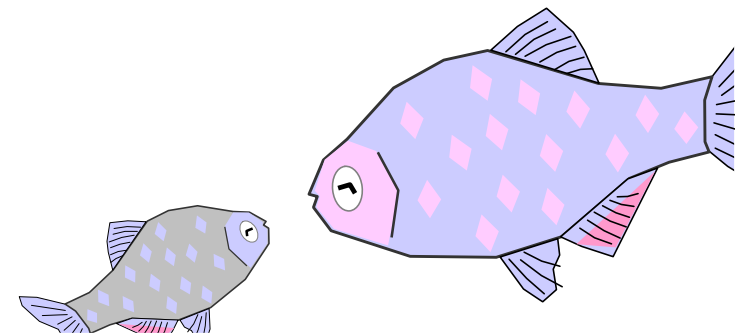
大雨が降った場合に想定される浸水深さ

2F軒下までつかる程度	5m
	4m
	3m
1F軒下までつかる程度	2m
大人の腰までつかる程度	1m
大人のヒザまでつかる程度	0.5m

- ◆10年確率 (10年に一度の大雨)
時間最大50mm程度の雨が降った場合
- ◆100年確率 (100年に一度の大雨)
時間最大109mm程度の雨が降った場合
- ◆200年確率 (200年に一度の大雨)
時間最大131mm程度の雨が降った場合

なぜ流域治水政策 が必要か

■ 水害に対する地域防災力の低下



「災いをやり過ごす知恵」=災害文化

嵩上げされた住宅



地域
継続

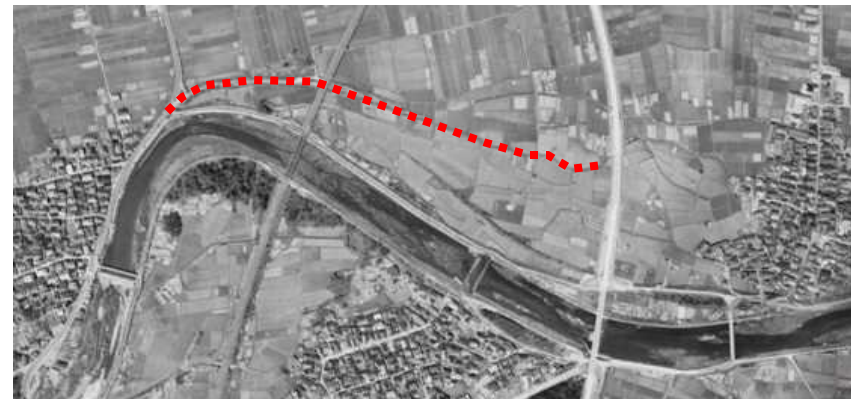
災害に見舞われても...

災いをやり過ごす知恵

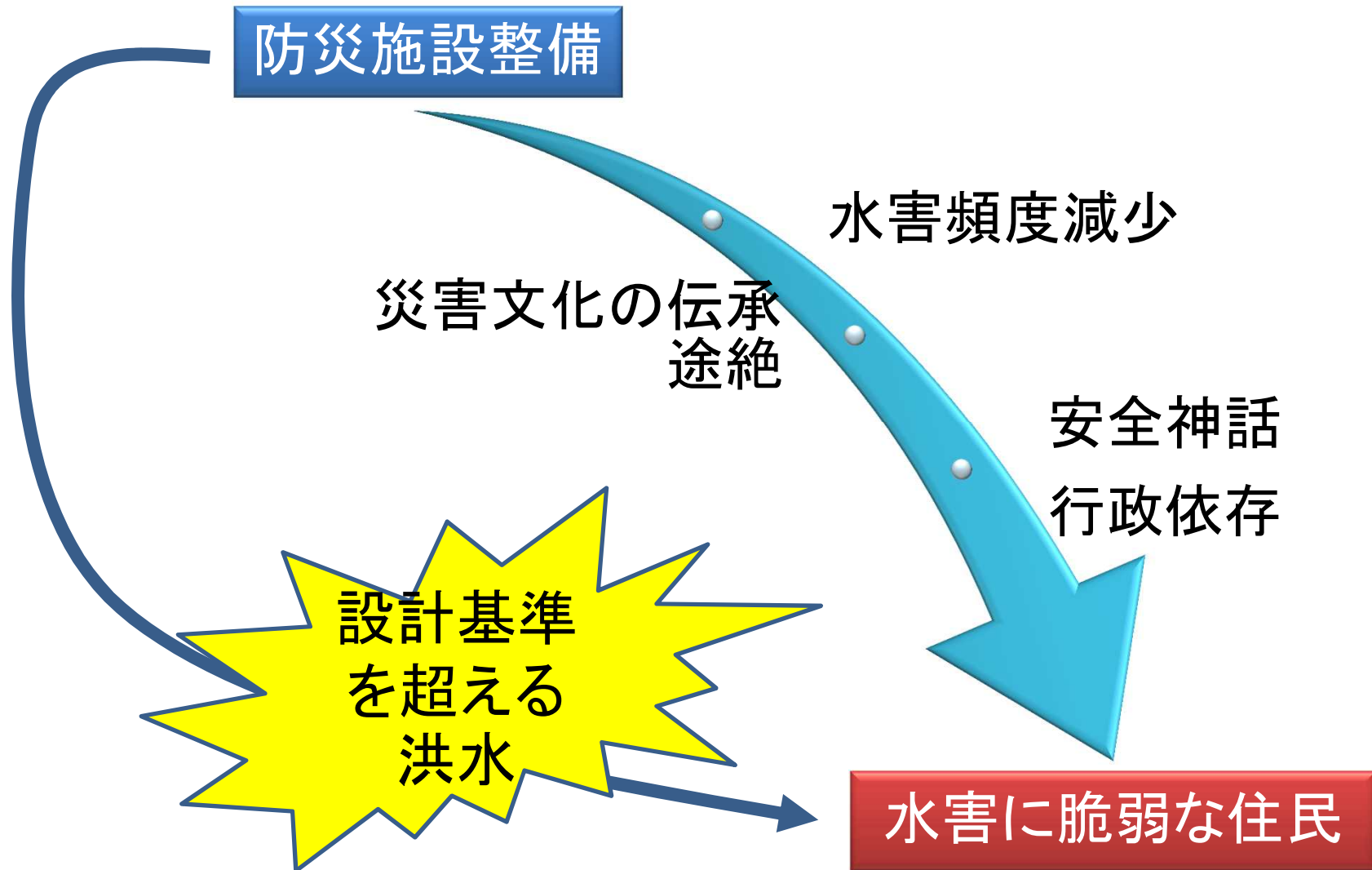
小さな洪水を少しずつ体験

防災施設が不十分

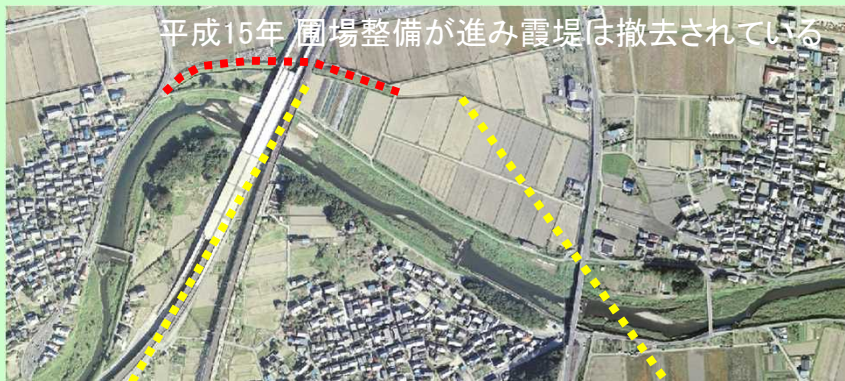
霞堤



「人為的に作られた安全が高まると、人間側の弱さが高まる」問題



■ 霞堤の機能が失われた事例(天野川氾濫域)



■ 二線堤の機能が失われた事例(日野川氾濫域)



堰板を設置するための切欠き部が残されているものの、歩車道境界ブロックが支障となっている。(平成21年時点)



- 霞堤内の宅地開発
 - 現行治水制度、都市計画制度では必ずしも否定されるものではない。
- 霞堤により氾濫流が誘導される箇所(自然遊水地)で宅地開発が進められている。
- 結果として、周辺の水田よりも宅地での水害リスクが高い地域になってしまう。

